

学校法人 相愛学園

理事長 相田 芳久 様

令和4年度

学校関係者評価委員会 活動報告

学校関係者評価委員会 代表

渡邊 徹

令和5年3月7日

令和4年度

焼津幼稚園 学校関係者評価委員会

□ 本日の出席者

渡 邊 徹	委員長	(学識経験者)
久保山 秀 美	委 員	(学園 評議員)
金 高 久 美	委 員	(焼津南保育園長)
山 本 敏 昭	委 員	(第2自治会第3町内会長)
八 倉 剛	委 員	(保護者)
白 瀬 悦 子	委 員	(保護者)

以上 6 名

□ 本日の日程

10 : 30	年間事業概要と園内自己評価結果の報告
11 : 00	園内環境見学・保育見学
12 : 00	昼 食 (給食試食)
12 : 30	関係者委員 協議
13 : 00	協議内容のまとめ
13 : 20	終了・解散

令和4年度学校関係者評価委員会

自己評価内容のまとめ

□ 教育目標

『明るく心豊かに』を建学の精神として、4つの目標を掲げ、それらを達成すべく独自の教育課程のもとに年間指導計画を立案し、日々の保育に精進する。

教育の4つの柱

- 1、じょうぶなからだに
 - 2、いのちをたいせつに
 - 3、やるきのあるこに
 - 4、よくかんがえるこに
- ・ 体験を通しての学びを中心とした総合的な生活環境の構築を進め、幼児期に身につけたい発達課題の達成を目指す。
 - ・ 情操の陶冶を主眼におき、感性の育成をねらった造形教育、音楽教育や健全な心身の育成をねらった体育指導、野外あそび、自然体験を園生活の軸とする。

□ 本年度の重点目標

- ① 集団生活の中で、一人ひとりが自分の思いを表現しながら主体的に生活していく姿を育む
- ② 遊びが充実するための園庭環境について、具体的な手立てを探り、実践していく
- ③ 幼児、保護者ともに安心な園生活を送ることができるよう環境を整え、コロナウィルス感染対策や防災について計画や振り返りを心がける

□ 自己評価結果について

評価項目	自己評価	
	評価	取り組み状況・反省と改善策
① 本園での活動や行事が、幼稚園教育要領、本園教育課程や幼児の発達に即した内容、方法によって、適切に計画性をもって運営されているか。また、主体性を育むことを念頭において指導・援	B	・年度初めには、クラス担任以外の教職員全員で重点目標についての理解や大切にしていくこと等について共有する研修を実施し、共通理解を図るよう心掛けた。 ・学期末の振り返りや教育行事の事前事後研修に加え、昨年から引き続きの研修“園庭環境の充実と子どもの育ち”について進めた他、教育課程の見直し、全クラス園内公開保育研修も実施。また、9月には焼津市私立幼稚園協会の教員公開保育研修会の実施担当園として公開保育も行った。研修の時間を作ることが難しくなっている中、行事等で多忙な時期には保育者が集まって振

助の工夫や環境設定、特に園庭環境についての工夫がなされたか		り返しをすることができなかったことは反省として残る。課題に対する具体的な手立ての実践と振り返りについては、まだ不十分なので、次年度は工夫して取り組みたい。
② 一人ひとりの幼児の思いや表現を大切に、保育者それぞれが、個に応じた指導・援助を工夫していたか	A	・近年特に、集団生活の中で、私達保育者が子ども達に育ってほしいと考える姿と、現在の子どもの姿との差が年々大きくなってきていると感じ、そのギャップに悩むことが増えている。今の子どもの姿に合わせて教育課程等の見直しもしながら、大切にしたいことについては共通意識をもって過ごせるようにしてきた。豊かな遊びや生活の中でこそ、自分の思いや感じ取りを表現できるであろうと考え、今後も工夫して実践していきたい。 ・子ども達の表われも様々で個別の援助を必要とする子が増えている現状の中、外部の専門機関とも連携しながら進めてきている。県私幼の子育て支援カウンセラー派遣事業や市の巡回相談、保育所等訪問支援事業等も活用し、外部の専門員とも情報交換しながら支援にあたっている。家庭環境も様々で、家庭での育ちが気がかりな様子もあり、保護者とも必要に応じて面談の機会を設けてたり働きかけたりしてきているが、子どもの育ちについて理解を共有することが難しい。
③ 防災や保健衛生、特にコロナ禍で感染予防が求められる中、子どもや保護者にとって、安心、安全な環境となっていたか	A	・県内での園バスに関する事件を受け、園バスの安全運営について見直しを実施した。園児の乗降に関する記録簿を作成し、運転手と乗務員とのダブルチェックを実施するようにした。 ・避難訓練については、毎月実施、主に津波避難に特化した訓練、火災訓練では火災による避難訓練と消防署が実施する花火教室を経験した。 ・学園の養護教諭の指導の下、子どもの健康管理について配慮をしてきた。年長児の視力検査については、通常の検査とは別に就学前に再度経験するなどの対応を行っている。 ・コロナ対応としては、子どもの生活環境の消毒や三密を避けるための様々な対応を実践してきた。園バスについては抗菌処理も

		施した。 ・園の日常的な対応については保護者へ文書で知らせると共に、感染予防については機に応じて啓蒙を図っている。コロナ禍の教育行事の運営についても、その行事を通して育てたいことについて改めて考え、実施可能な形を考え実施するよう努力してきた。昨年、一昨年の実践を踏まえ、より効果的にできるよう計画、実施した。 ・1月半ばには、コロナと同時にインフルエンザの流行もあり、満3歳児クラスで一日学級閉鎖の措置を講じた。
--	--	--

□ 協議・評価の観点

1. 幼稚園での活動や行事が、幼児の発達に即した内容・方法によって適切に運営されているか
 保育者の援助や環境設定が、子どもの生き生きとした姿や主体性を育むことにつながっているか
 (評価項目①)
2. 一人ひとりの幼児の思いや表現を大切にし、個に応じた指導・援助が効果的に実施されているか
 (評価項目②)
2. 防災や感染症への対応がなされ、子どもや保護者にとって安心、安全な園生活となっているか
 (評価項目③)

□ 学校関係者評価委員会の評価・意見 □

観点1についての評価

- ・絶えず、子どもの育ちを見つめる場を設けているので、保育者の共通理解が図られ、充実した保育が行われている。
- ・園外での研修会にも出来るだけ参加し、積極的に学びの場をとっているので、安定した指導が展開されている。
- ・園庭の広さを確保し、子どもの遊びの創造的環境を生み出す努力をしている。これらの努力が子どもに安定感を持たせ、主体性を育てている。

評価 : A

観点2についての評価

- ・園児の絵を地域のお店等で飾るなど、その個の作品を認める場になっている。
- ・“これをしたい”“これを作りたい”という姿が増えてきた。その環境を整えてやると、子ども同士で伝えあったり教え合ったりする姿が個の成長を示している。
- ・ふだんから、適切な個への援助について、ベテラン教師が若手教師に援助する雰囲気があるので、個に応じた指導、援助ができています。

評価 : A

観点3についての評価

- ・避難訓練の積み重ねが、子どもの敏速な行動となっている。
- ・職員による遊具点検と専門業者による点検も着実に行われている。
- ・園バス運行についても、ダブルチェック、欠席者への連絡など確実に行われている。運行については、令和6年度に廃止の方向ということである。
- ・コロナ対策、ふだんの体調管理にも万全を期している。子どもや保護者にとって、安全、安心な園生活となっている。

評価 : A

その他の特記すべき事項として（園からの反省・課題を含む）

- ・不適切な指導という点については、現在まで聞こえてこない。保護者は安心して登園させている。これが“焼津幼稚園”の伝統となり、地域の評価を得ている。

以上、学校関係者評価委員会の評価報告と致します。

学校関係者評価委員会 委員長

渡邊 敏

令和4年度 学校関係者評価委員会

資料

学校法人相愛学園
焼津幼稚園

令和4年度

焼津幼稚園 学校関係者評価委員会

□ 本日の出席者

渡 邊 徹	委員長	(学識経験者)
久保山 秀 美	委 員	(学園 評議員)
金 高 久 美	委 員	(焼津南保育園長)
山 本 敏 昭	委 員	(第2自治会第3町内会長)
八 倉 剛	委 員	(保護者)
白 瀬 悦 子	委 員	(保護者)

以上 6 名

□ 本日の日程

10 : 30	年間事業概要と園内自己評価結果の報告
11 : 00	園内環境見学・保育見学
12 : 00	昼 食 (給食試食)
12 : 30	関係者委員 協議
13 : 00	協議内容のまとめ
13 : 20	終了・解散

令和4年度 事業進捗状況報告

焼津幼稚園

□ 教育計画について

○ 教育計画・年間指導計画に従っての教育運営

集団生活の中で、自分の思いを表現しながら自分らしく生活をする姿を求め、主体性を育む教育実践を心がける

- ・ 子どもの発達の様やその時期において大切にしたいことなどを共通理解し、期の保育計画や子どもの生活を組み立てていく
- ・ 子どもの表れや課題について、その都度共通理解に努め、支援体制を組んで対応する

○ 園内研修

- ・ 主体性を育てるための保育者の関わりや援助、環境（特に園庭環境）の設定などについて協議を深める
- ・ 今の子どもを振り返り、教育課程の見直しを図る
- ・ 全クラス園内公開保育研修を実施し、互いの保育を見合い学びを深める

○ 県私立幼稚園協会主催の研修をはじめとする園外での研修に可能な限り参加、報告会で共通理解に努める

○ 園内自己点検・評価の実施、振り返りと来年への課題の点検

□ 地域連携計画について

○ 焼津水産高校生とのふれあい

- ・ 1年生保育体験実習（10月・11月 コロナ対応、時間短縮で実施）
- ・ 藤枝養護学校分校との交流（コロナ対応、手作り玩具を頂く）
- ・ 実習場見学（10月）

○ 焼津中学校生徒職場体験受け入れ

○ 焼津公民館 文化のまつりへの参加

} コロナウィルス感染防止のため、中止

○ あかり展、地域の店舗に園児の絵を飾る

○ 子育て支援事業…未就園児対象の会（めだかちゃんの家）4月～3月実施

園生活体験 さくらんぼの家 近年の利用者状況をみて、今年度は取りやめ

□ 安全管理についての実践

○ 園庭の遊具の安全点検、年度末には専門業者による点検も実施

○ 避難訓練 地震・津波避難に特化して毎月実施 火災訓練 花火教室実

○ コロナウィルス感染防止のための消毒、園児の体調管理と指導

○ 園バスの安全運営についての見直し

□ 施設設備計画について

○ 年長つき組保育室壁一部補修

○ 南館入口玄関修繕

○ プール場外壁の塗装

○ バス通用口フェンス一部貼り替え

令和4年度学校関係者評価委員会

自己評価内容のまとめ

□ 教育目標

『明るく心豊かに』を建学の精神として、4つの目標を掲げ、それらを達成すべく独自の教育課程のもとに年間指導計画を立案し、日々の保育に精進する。

教育の4つの柱

- 1、じょうぶなからだに
 - 2、いのちをたいせつに
 - 3、やるきのあるこに
 - 4、よくかんがえるこに
- ・ 体験を通しての学びを中心とした総合的な生活環境の構築を進め、幼児期に身につけたい発達課題の達成を目指す。
 - ・ 情操の陶冶を主眼におき、感性の育成をねらった造形教育、音楽教育や健全な心身の育成をねらった体育指導、野外あそび、自然体験を園生活の軸とする。

□ 本年度の重点目標

- ① 集団生活の中で、一人ひとりが自分の思いを表現しながら主体的に生活していく姿を育む
- ② 遊びが充実するための園庭環境について、具体的な手立てを探り、実践していく
- ③ 幼児、保護者ともに安心な園生活を送ることができるよう環境を整え、コロナウィルス感染対策や防災について計画や振り返りを心がける

□ 自己評価結果について

評価項目	自己評価	
	評価	取り組み状況・反省と改善策
① 本園での活動や行事が、幼稚園教育要領、本園教育課程や幼児の発達に即した内容、方法によって、適切に計画性をもって運営されているか。また、主体性を育むことを念頭において指導・援	B	・年度初めには、クラス担任以外の教職員全員で重点目標についての理解や大切にしていこうこと等について共有する研修を実施し、共通理解を図るよう心掛けた。 ・学期末の振り返りや教育行事の事前事後研修に加え、昨年から引き続きの研修“園庭環境の充実と子どもの育ち”について進めた他、教育課程の見直し、全クラス園内公開保育研修も実施。また、9月には焼津市私立幼稚園協会の教員公開保育研修会の実施担当園として公開保育も行った。研修の時間を作ることが難しくなっている中、行事等で多忙な時期には保育者が集まって振

助の工夫や環境設定、特に園庭環境についての工夫がなされたか		り返しをすることができなかったことは反省として残る。課題に対する具体的な手立ての実践と振り返りについては、まだ不十分なので、次年度は工夫して取り組みたい。
② 一人ひとりの幼児の思いや表現を大切に、保育者それぞれが、個に応じた指導・援助を工夫していたか	A	・近年特に、集団生活の中で、私達保育者が子ども達に育ってほしいと考える姿と、現在の子どもの姿との差が年々大きくなってきていると感じ、そのギャップに悩むことが増えている。今の子どもの姿に合わせて教育課程等の見直しもしながら、大切にしたいことについては共通意識をもって過ごせるようにしてきた。豊かな遊びや生活の中でこそ、自分の思いや感じ取りを表現できるであろうと考え、今後も工夫して実践していきたい。 ・子ども達の表われも様々で個別の援助を必要とする子が増えている現状の中、外部の専門機関とも連携しながら進めてきている。県私幼の子育て支援カウンセラー派遣事業や市の巡回相談、保育所等訪問支援事業等も活用し、外部の専門員とも情報交換しながら支援にあたっている。家庭環境も様々で、家庭での育ちが気がかりな様子もあり、保護者とも必要に応じて面談の機会を設けてたり働きかけたりしてきているが、子どもの育ちについて理解を共有することが難しい。
③ 防災や保健衛生、特にコロナ禍で感染予防が求められる中、子どもや保護者にとって、安心、安全な環境となっていたか	A	・県内での園バスに関する事件を受け、園バスの安全運営について見直しを実施した。園児の乗降に関する記録簿を作成し、運転手と乗務員とのダブルチェックを実施するようにした。 ・避難訓練については、毎月実施、主に津波避難に特化した訓練、火災訓練では火災による避難訓練と消防署が実施する花火教室を経験した。 ・学園の養護教諭の指導の下、子どもの健康管理について配慮をしてきた。年長児の視力検査については、通常の検査とは別に就学前に再度経験するなどの対応を行っている。 ・コロナ対応としては、子どもの生活環境の消毒や三密を避けるための様々な対応を実践してきた。園バスについては抗菌処理も

		施した。 ・園の日常的な対応については保護者へ文書で知らせると共に、感染予防については機に応じて啓蒙を図っている。コロナ禍の教育行事の運営についても、その行事を通して育てたいことについて改めて考え、実施可能な形を考え実施するよう努力してきた。昨年、一昨年の実践を踏まえ、より効果的にできるよう計画、実施した。 ・1月半ばには、コロナと同時にインフルエンザの流行もあり、満3歳児クラスで一日学級閉鎖の措置を講じた。
--	--	--

□ 協議・評価の観点

1. 幼稚園での活動や行事が、幼児の発達に即した内容・方法によって適切に運営されているか
 保育者の援助や環境設定が、子どもの生き生きとした姿や主体性を育むことにつながっているか
 (評価項目①)

2. 一人ひとりの幼児の思いや表現を大切にし、個に応じた指導・援助が効果的に実施されているか
 (評価項目②)

2. 防災や感染症への対応がなされ、子どもや保護者にとって安心、安全な園生活となっているか
 (評価項目③)

Ⅰ 「教育内容」についての検証結果及び改善策

昨年度に引き続き、主体的な子どもの姿を求めることのひとつの視点として園庭環境をとりあげ、遊びの充実から主体性の育ちへ繋げていけるよう願って取り組んだ。今年度も学年で場所を担当し、学期ごと事例検討から見直しをして進めた。季節によって園庭で生まれる遊びが違い、遊びが少ない季節をどう構成していくかは次年度さらに考えたい。子どもが十分に遊びこむための時間的なゆとりの捻出、より主体的に遊びが広がるための教師の遊びへの関わり方も課題である。個別の対応を必要とする子が年々増えている現状の中、全体としての保育をスムーズに進めにくい様子も出てきたり、全体の子どもの姿としてみても、子どもの姿の実態に合わせて保育のねらいを変えていく必要を感じた。課題の多さを感じた。

Ⅱ 「地域の幼児教育センターとしての役割」についての検証結果及び改善策

コロナ禍でも、活動内容に配慮しながら未就園の会の活動を実施した。体験保育については、近年、小規模保育者を利用している家庭も増え、コロナの影響もあり利用者が減っているため、今年度は実施を取りやめた。在園児については、今年度も、個の気になる発達の様子や保護者の子育ての悩み等必要に応じて面談の機会を設けたり、巡回カウンセラーや焼津市巡回相談、地域の相談機関などをつないでいけるよう努めた。家庭の事情や教育力も様々で、子の育ちについて共有したり子への関わりについて共通意識を持つのが難しいケースも多い。

Ⅲ 「安全管理」についての検証結果及び改善策

県内での園バスの事件や不適切な保育による事件については、教職員間で情報や問題点について共有、配慮して過ごすよう啓蒙した。園バスの安全管理については点検も行った。コロナ感染防止対応としては、子どもの生活環境の日常的な消毒や三密を避ける工夫などに取り組んできた。避難訓練では、地震・津波・火災等の対応の違いも伝えながら進めてきた。

Ⅳ 「人事管理」についての検証結果及び改善策

パートも含め勤務体制が様々なので、それぞれに配慮しながら進めてきた。各々家庭の事情等で外出や早退等もしやすいようにカバーし合って進めてきている。長期休暇中の預かり保育について、人材派遣等も活用しながら、職員の負担の軽減にも努めて進めた。

Ⅴ 「財務管理」についての検証結果及び改善策

財務管理については、園児数も減少してきている現状を受けて、施設設備計画も吟味し、節約を心掛けたい。

「外部アンケート」からの検証結果及び改善策

年間の教育行事後に実施している保護者アンケートからは、園の教育や我が子の成長を理解し喜んで下さっている様子が窺えた。コロナ禍での行事についても、配慮しながらの計画運営に理解を頂けて有難い。長引くコロナ禍で、状況を理解しつつも、なるべく早く例年のような行事を復活させてほしいという意見もあった。手紙やHP以外の方法について模索したい。保護者の考え方やニーズも年々多様化、また個別化してきていて、対応の難しさも感じる。

令和4年度教職員自己点検・自己評価まとめ

<研修テーマについて、自身の取り組みを振り返っての考察>

(成果と課題・来年度への具体的手立て)

- 昨年度に引き続き、園庭での遊びを充実させるための環境を整えていった。子どもが扱いやすい道具をペットボトルで作って準備したりしたことで、遊びによく使う姿も見られた。援助等について考えながら進めていったことで遊びを充実させることにつながったと思うが、担当の場の遊びを常に見ることが出来ないため、援助が難しいと感じる。
- 保育室の遊び道具についても、遊びやすさや扱いやすさを考え、写真を活用したりその時々の子どもの関心を捉えて遊びに必要なものを提供したりすることで、子どもが自分の思いに合わせて使う姿が見られるようになった。園庭環境も、反省を生かして整えていったことで、子ども同士の関わりが拡がりに繋がったように思う。遊びマップのようにまとめることは効果的だと思う。
- 反省から改善をしたところ、問題点はある程度改善されたように感じるが、あらたに気になる様子も出てきたように思う。今後は、さらにその時々の子どもの様子に合わせた再構成について考えたい。
- 年間を通して、学年の担当場所を整えていくことを継続することは難しいが、定期的に話し合いを見直すことで新たな環境づくりは意識出来ていると思う。室内の環境についてはマンネリ化してしまっている。今あるもので新たなコーナー作りを考えていくのは難しい。
- 様々な場所、場面での子どもの遊びを観察し話し合う機会を持つことで、充実した環境を整え、遊びが展開しやすくなったり遊びの幅を広げられたと思う。しかし、行事前とか生活が忙しくなると目が届きにくくなり、反省が残る。
- 園内研修のテーマに向けてよりよくしたいと思うが、どのように進めていけば効果が上がるのか悩みが大きかった。まずは、それぞれの意見を聞きながら進め、保育者自身も楽しく、継続していきやすいものが良いと考え取り組んできた。
- 園庭環境を子どもにわかりやすく整えていくことで、絵本や虫、池の生き物などへの興味・関心が深まり、自分の好きなものに夢中になる姿が育ってきた。異年齢での伝えあいも大きい。研修を通して、保育者間で共有できたことも多く、互いの考えを知る有意義な場だと感じる。
- 自分自身にゆとりがあることが大事。その点で反省が残る。
- 教育課程の振り返りをするすることで、子どもの成長や課題を改めて考察する時間になった。また、10の姿にあわせて、子どもの今の育ちを見つめることや、各学年で検討できたことは共通理解をすることにもつながった。
- 園内公開保育は、自分の保育の振り返りが出来、他クラスの保育から自分にはない良さを知ったり、保育者の姿が子どもの育ちに影響していることも感じられ、勉強の場となる。
- 子どもが主体的に遊ぶことを求めすぎてしまい、“もっと子ども達で遊びを広げられるように” “もっと環境を活かして遊べるように” という課題に対する保育者の援助に欠けていた。もっと子どもの遊びに深くかかわり、思いや気づきを知り、子どもが必要としていること（人的、物的環境）へ意識を向けていきたい。記録に残し、保育者間の共有や保護者への発信も必要。

＜子どもの主体性を育てるという観点から、

自身の子どもへの関わりや援助、支援についての考察＞

- 子どもから“これをしたい”“これを作りたい”という姿がふえてきて、準備できるものについては、自由に使えるような環境を整えるようにした。その中で、子ども同士教え合ったり伝えあったりしてつながりも出てきた。
- 年代にあわせて、まずはスキンシップや会話を増やし、その子らしさが出てくるのを待つようにした。その子らしさが表現できるようになる時期にも個人差が大きく、個の持つ課題にも気づかされた。
- 子ども達から遊びに関する発信が多く、自分たちで遊びを進めている様子が早い段階から見られ、そんな姿から学ばせてもらうことも多かった。子どもの気持ちをまずは安定するよう受け止めることを今後も大事にし、子ども自らが気づいたり考えたりする時間を大切に過ごしていきたい。
- 子どもが自ら考え行動できるよう促しながら関わってきている。子どもが自分たちで相談したり遊びを進めたりしていく際、保育者としてどのように援助としてかかわるのか、その点がやはり難しいと感じる。今後も考えていかなければならない。
- 危険なことや好ましくない表れが多いと、どうしても“ダメだよ”と遊びを止めてしまうことも多くなってしまった。
- 課題が多いと感じる子どもの表れから、自分自身の保育を振り返り、改善できることは何かを考え対応していくきっかけに出来た。願いをもって遊びを提供していくが、それらが細切れになってしまったと反省する。遊びが継続し発展していけるような援助を考えていきたい。
- 集団生活やまわりの友達の思いなどに目が向くまでに時間がかかる様子があった。その子たちの目や関心を、個から集団へ向けていく保育者としての力が十分ではなかったと反省する。保育者として、遊びの魅力をどう伝えるか、どのようにプラスの言葉かけをしていくか、子どもの様々な表れをどう受け止めていくのか…子どもの育ちも変わってくる中、難しさも多い。
- 子どもの育ちも変わってきて、保育を通して育ってほしい姿と実際の姿の幅が大きくなりすぎないようにと進めてきてはいるものの、振り返ってみると願う姿が少し高かったかもしれないと思う。受け身になりがちな子ども達に対し、自主性を発揮できるようにするためには、一つ一つの活動を通し、自分なりにやり遂げることで持つことが出来る自信を付けていくことが必要で、それを励ます保育者の関わり方について、改めて考えていきたい。
- 主体性の根っこにある“子ども自身の心の安定”が得られるように、子どもの思いを受け止めることを心がけた。まだまだ、失敗をしないように先回りしたり指示が多かったり、失敗を否定してしまう場面があると反省する。“こんどはこうしてみよう”“うまくいかなかったけど、自分でやってみたんだね”というようにポジティブに次へ繋げていけるような働きかけが常にできるようでありたい。

＜危機管理・安全管理の観点において、保育室の環境設定や

自身の子どもへの関わりへの考察＞

- 園バスの事件をきっかけに、より安全に配慮しなければならないと感じる。日々のいろいろな場面での確認を怠らないようにしたり、園庭の隅の方まで気にかけてみるようにしている。園生活の中で、

危ないことについて、子どもと話をしたり考えさせたりしていきたい。

- 普段は問題なく出来ていることも、ふいに危険な瞬間があったりするので、安心せず目を配るよう心掛けたい。
- 保育室内のものの配置について、定期的に危険防止の視点で確認することも必要。
- 危険をすべて排除することは不可能なので、子どもが自身で危険に気づいたり安全に過ごせるよう気を付けたりできるようにしていくことが大切。
- 子どもの様子にしっかりと目を配ることが基本。見守りと共有が大切。
- 刺激に弱かったり常に落ち着かない様子の子もみられ、環境はシンプルに、活動する際の動線も短く、やりやすくするなどの工夫も必要だった。子どもの様子、特性に合わせて環境も整えることで危険回避につながる。
- 朝の自由な遊びの時間帯に、園庭の管理者が少ないことが気になる。また、園庭での遊びの時間には、保育者も園庭のいろいろな場所に配置するようにして、危険や遊びへ目が配れるようにしたい。
- 危険と思われる場所がある場合は早めに対処できるようにしたい。

令和4年度自己点検・自己評価まとめ（級外教職員）

<自らの職務についての考察>（成果と課題、来年度への具体的手立て）

- クラス補助として、担任がスムーズに保育を進められるよう心掛けた。どこまで援助したらいいか悩む場面はあり、補助としての援助について、事例を出しながら級外や担任で話し合いが出来ると思う。
- 子どもの色水遊びに使えるよう朝顔の栽培をして、子ども達が遊びに使えて良かった。今後は伝承遊びを気にかけていきたい。
- いろいろな面から子どもをとらえて、一人一人の思いに気づき、個性を伸ばす手立てを見つけることが大事であるということに気づけた。級外という立場でも、子どものいろいろな面を理解しようと努力し、他の保育士と共有できるよう心掛けたい。
- “報・連・相” “話しやすい職場環境” が必要。
- 効率よく仕事が進められるよう、次年度は、一年間の級外としての仕事内容をしっかりとまとめて記録として次に生かせるようにしたい。
- 預かり保育では、広い部屋に移ったことで、当初は落ち着かない様子がみられたため、子どもの様子を見ながらコーナーを作って環境と整えた。コーナー遊びが充実してきて、異年齢で交流しながらの遊びも盛んになった。子どもの動きを予想し、小さなことでも認め、褒めることを心がけていきたい。
- できるだけ家庭で過ごす環境に近い場を提供することを意識して過ごした。甘えが強い子に対しての関わり方が今後の課題。
- バス通園については、バス停でのあいさつが元気に出来るよう子ども達とがんばった。

- 朝の時間に園庭で絵本の読み聞かせをしているが、野外ということも有り落ち着かない様子もある。落ち着いて、長いお話でも聞くことが出来るような環境を考えたい。

＜子どもの主体性を育てるという観点から、

自身の子どもへの関わりや援助、支援についての考察＞

- 子どもにとって自分を応援してくれる存在、見守ってくれる存在は、何かにチャレンジする大きな手助けになると思う。“できなくても大丈夫。先生は見ていますよ！”と声をかけ、少しでもできたときは“すごいね！”とほめるよう心掛けている。次へつながっていけるよう受け止めていきたい。
- 朝の自由な遊びの際に、子どもが主体的にドッジボールが出来るよう援助してきて、自分たちで足で線を引いたり、仲間を集めてチーム分けしたりするようになって嬉しく感じた。
- これまでは、見守ることに重きを置いて考えていた部分があったが、子どもの遊びを観察し、主体的な遊びを発展させるために適した保育者の関わりが大事であることを学んだ。保育者も環境の一部になることを意識していきたい。
- なるべく担任やほかの級外保育者との連携を密にするようにし、個に合わせた援助が出来るよう心掛けてきた。
- 預かり保育は異年齢の集団生活であるので、その関わりを通して年上も年下も互いにいろいろなことを学んで成長していると感じる。今後も預かり保育ならではの交流を大切にしていきたい。
- 自分のことは自分でできるよう見守りながら、必要に応じて声をかけ、がんばりを認めるようにしている。そうすることで自信や向上心を伸ばしてあげたい。
- 子どもが自分でやろうとする様子などについて、担任に伝えるようにした。年長児が、年中や年少児のお手本となるという意識が持てるように、言葉かけを工夫した。

＜危機管理・安全管理の観点において、園生活や

自身の園児への関わりについての考察＞

- 預かり保育は、午後の疲れも出てくる時で怪我也心配されるため、大きな怪我にならないよう園庭で遊ぶ前に注意を促したり、怪我がないよう見守りながら過ごしている。危険な遊びが見られると“ダメ”と否定してしまうが、違った形で楽しく遊ぶことが出来る方法を一緒に考えていくことも大切。園生活の中の様々な場面での安全管理について、マニュアルを確認し行動したい。
- 園バス運行中は、個も保育者も安全な姿勢で乗車できるよう気を付けた。各コースの避難場所も確認し災害時に備えた。園バスの事件後は、乗車人数等を記載するようにし、降車後は運転手とのダブルチェックも忘れず行うよう心掛けている。また、コロナ感染予防のため、消毒と換気についても引き続き留意している。
- 朝の門での受け入れ時には、徒歩で通園してくる子には道路わきを安全に歩くよう声をかけたり、道路への飛び出しがないよう気をつけて対応した。

令和4年度 年度末保護者アンケート まとめ

□ お子様の、この一年の成長について、気づいたこと等ありましたらお聞かせください。

《満3歳》

- ・ 一日の出来事について話が出来るようになった。
- ・ 嫌な時は“嫌！”と伝えられるようになった。
- ・ 友だちと遊ぶことや園に行くことが楽しみになった。
- ・ 『自分でできるよ』ということが増えた。
- ・ 今まで気づかなかった我が子の性格に気付けた。
- ・ 体力がついた。これまで親と離れて過ごすことがなかったにも関わらず、泣かずに登園で出来ているのは、親子の信頼関係が築けているのかという自信に繋がった。同じ年齢の友だちとの関りで成長していると日々感じている。
- ・ 秋からの入園で、初めは制服を着るのも嫌がっていたが、今では自分でボタンまで出来るようになり成長を感じる。
- ・ 今までは独占していたものも、進んで分けたり譲ったりするようになった。
- ・ 身支度を進んでやるようになった。
- ・ 園で習う手遊びなどを家でも見せてくれる。友達のことを教えてくれるようになった。
- ・ 泣かずに登園出来るようになり、ボタンの掛け外しやマスクの着用も自分で出来るようになった。
- ・ よく話をするようになり、自分でやるが増えた。
- ・ 歌をよく歌うようになった。友達の顔と名前が一致するようになった。

《年少》

- ・ 話すことが上手になった。自分のことを自分でしようとするのが身についた。
- ・ 話の理解、衣服の着脱、挨拶などができるようになった。友達の名前もたくさん聞けて、毎日楽しく通えてよかった。
- ・ 自分のことを進んでやるようになったり、家族が困っていると声をかけて助けてくれるようになった。
- ・ 自分の座っていた椅子をしまったり、家族でしまい忘れていると教えてくれたりする。
- ・ 着替えや食事など、自分で出来ることを一生懸命やろうとしている姿に成長を感じる。
- ・ 自立に向けて、ひとつひとつコツコツと成長している姿が見られ、嬉しく感じている。
- ・ なんでも甘えて大人にやってもらうことが多かったが、着替えやお箸の使い方も上手になり、自分でできる喜びを感じるようになったと思う。
- ・ 身体を動かすことに慣れてきて、これまで苦手だった遊具等でも積極的に遊ぶようになった。
- ・ 友だちの名前や遊んだ様子等たくさん話をしてくれて、周囲の人に興味をたくさん持つようになった。
- ・ 相手の気持ちがわかり、対応できるようになってきた。
- ・ 『こういわれると悲しい気持ちになるよね』など、少しずつ相手の気持ちを考えられるようになった。

った。

- ・ 恥ずかしがり屋だが、音楽祭ではしっかりやろうという気持ちが伝わりがんばっていて成長を感じた。絵についても形や色使いが上手になった。
- ・ 食事中に肘をつかないこと、苦手なものも少しB食べてみることに、お皿の用意など、食事の面で沢山のことを教えてもらっていると感謝している。
- ・ 脱いだものをたたんだり、自分で着替えたりと着替えの面での成長は大きい。排泄についても、男子用トイレでも上手に出来るようになった。
- ・ お箸やハサミなどの道具の使い方が上手になった。
- ・ やる時はしっかりやるというメリハリがついてきた。
- ・ 少しずつ自信がついてきている。
- ・ よく話をするようになり、いろいろな事も進んでできるようになった。
- ・ 一人で出来ることが増え、何かできた時の喜び、達成感によって自信に繋がっていると感じる。
- ・ 下の子の世話も上手にしてくれるようになった。

《年中》

- ・ 友達の名前がたくさん聞かれるようになって、関わりが増えていること嬉しく思う。
- ・ マラソン、なわとび、鉄棒など、頑張る気持ちが芽生えてきた。
- ・ 友達との出来事を上手に話してくれるようになった。
- ・ 給食をよく食べるようになった。縄跳びの練習を、家で進んでやっている様子に成長を感じた。
- ・ 音楽祭のおかげか、歌やダンスが年々好きになっている。
- ・ 自分で朝の支度が出来るようになった。
- ・ 人の気持ちを考えるようになってきた。
- ・ 手伝いをしてくれるようになった。
- ・ よく話をするようになり、楽しく過ごしている様子が伝わってくる。
- ・ 園で出来たこと、踊りやなわとび、工作など楽しそうに話してくれると、頑張っている様子が伝わり安心する。
- ・ 脱いだ服を進んでたたんだり、下の子に優しく接したり世話をする様子に成長を感じる。
- ・ 絵が上手になったり仕事が丁寧になったり、能力的な成長を感じる。家族が調子が悪い時には一生懸命手伝ってくれて嬉しかった。
- ・ 園生活での行事を楽しんでいる様子が見られるようになった。自分の思いを相手に伝えられるようになってきた。好き嫌いなく食べられるようになった。
- ・ 手や足など身体の動かし方が上手になった。
- ・ 年少の頃よりも周りが見えるようになったり、頑張ろうとする気持ちが持てるようになった。
- ・ 語彙が増えてお話が上手になった。
- ・ 集中力がつき、根気強く取り組むようになってきた。
- ・ 自分は我慢して譲ってあげることが出来るようになった。

《年長》

- ・ 先生からの伝言など、しっかりと伝えてくれるようになった。帰って来てからも、汚れ物を洗濯機まで持って行ったり食事後に食器を片付けたり、自分でするようになった。
- ・ 今まで苦手だった雲梯やなわとびができるようになり運動能力がのびた。自分の考えを持ち、伝えられるようになり、周りを見て行動するようにもなった。
- ・ 入学の準備が出来た。
- ・ 友達との関わりが増え、いろいろな遊びを楽しんでいた。
- ・ 食事に時間がかからなくなり、嫌いだった洗顔も出来るようになった。
- ・ 食事の量が増えた。園でいろいろなものを作って持って帰って来ては話をたくさんしてくれる。その話を聞くのが楽しみ。
- ・ 自分の好きなことをいろいろと工夫してやるようになった。
- ・ 友達に目が向くようになり、たくさん関わるようになったぶんトラブルも増えた。まだ自分の力で解決するには課題が残るが、担任に連絡ノートで相談すると丁寧に対応してくれて、我が子もトラブルを乗り越える経験を重ねられた。
- ・ 小さな子の面倒をみたり、やるべきことはやるようになった。
- ・ 考えて行動するようになった。以前よりも動じない心が身についてきたように思う。
- ・ みんなで力を合わせて頑張ることを楽しんでいた。
- ・ 我が子は積極的に友達に関わるタイプではないものの、友だちの様子に関心を持ってみているようだ。園での出来ごとなど、帰宅してから伝えてくれるようになった。
- ・ 得意、不得意がはっきりとしてきて、得意な事への集中力が増した。口も達者になり、親が戸惑う場面も増えた。何かをやり遂げる、最後まで諦めないことなどたくさん挑戦できている。
- ・ 今まででは周りに流されることが多かったが、良いこと、悪いことなどしっかりと伝えられるようになってきた。
- ・ 苦手なこともチャレンジしたり、出来るようになりたいと前向きに取り組むようになった。継続して取り組めるようになった。友達同士、衝突しても自分達で解決するようになった。
- ・ 自分の思いをコントロールできるようになってきて、ただ泣くのではなく、何故泣いているのかを伝えられるようになり、すぐに落ち着くようになった。
- ・ マイペースで協調性がなかったが、友だちとの生活や先生からのアドバイスで、着替えや給食が早くなり、協調性が出てきたと思う。
- ・ よく考えるようになった。できないことにもチャレンジし、失敗を怖がらなくなった。
- ・ 練習したり自分で準備したり、自分で努力することを覚えてくれたと思う。苦手だったことにもスムーズに行動できるようになった。

□ お子様の来年度に向けて、どんな点での成長を期待しますか？

《満3歳》

- ・ 食事面で、姿勢に気をつけて食べたり、遊びたべをしないで食べたり出来るようになって欲しい。
- ・ 食わず嫌いを改善したい。
- ・ 遊びながらでなく、どんどん着替えを済ませられるようになって欲しい。
- ・ まだ甘えてしまう部分が多くつい手を出してしまうので、“自分のことは自分でする、そうしな

いと自分が困る”ということに、少しずつ気付いてほしい。病気をせず元気に通ってほしい。

- ・ 相手の気持ちを考えられるようになって欲しい。
- ・ 自分の思いをしっかりと言葉で伝えられるようになって欲しい。
- ・ さらに会話が上手になって欲しい。
- ・ トイレの自立。
- ・ いろいろな友達と、コミュニケーションの仕方を学んで仲良く楽しく過ごして欲しい。

《年少》

- ・ 自己中心でなく周りにも目が向くようになって欲しい。我慢することも集団生活を通して身に付けて欲しい。
- ・ “いけない”とわかっている手が出てしまうことがあるので、相手を傷つける言動をなくしていきたい。
- ・ 自分の気持ちを相手に伝えながら友達と一緒に遊ぶことが出来るようになって欲しい。
- ・ 積極性を身に付けて欲しい。
- ・ 年中児になるので、年少さんにも優しく出来るようになって欲しい。
- ・ 着替えが上手に早く出来るようになって欲しい。相手の気持ちに気付きながら仲良く過ごせるように、本人なりの方法を見つけて欲しい。
- ・ 体調を崩しやすい一年だったので、友だちと楽しみながら体力をつけていって欲しい。
- ・ 集中して物事に向かえるようになって欲しい。
- ・ 早起きして、朝食をしっかり食べて、余裕を持って登園できるようにしたい。
- ・ いろいろなことにチャレンジして、成功も失敗も学んで、出来ることま自信を増やしていって欲しい。
- ・ 自分の伝えたいことを、相手に上手に伝えられるようになって欲しい。
- ・ 不安に感じると涙することが多いので、自信をつけて笑顔で通えたらと思う。
- ・ 誰に対してもやさしく接し、困っていたら助けてあげたり一緒に考えたり出来るようになって欲しい。
- ・ 人の話をしっかりと聞いたり、みんなと一緒に行動できるように頑張ってもらいたい。

《年中》

- ・ 自分の気持ちに折り合いをつけて友だちと関わるようになって欲しい。相手を思いやる心が育つといいと思う。
- ・ 相手の気持ちを考えられるようになって欲しい。
- ・ 言われなくても自分で考え行動できるようになって欲しい。挨拶や片付けなど基本的な生活習慣を確実に身に付けたい。
- ・ 自分の意見をしっかりと伝えられるようになって欲しい。
- ・ 自分の感情をコントロールしながら言葉で伝えられるようになって欲しい。
- ・ 下の子の面倒を進んで出来るようになって欲しい。
- ・ 自分の個性を尊重して成長して欲しい。
- ・ 来年度はもう少し早く環境に慣れ、自分を出して生活して欲しい。困ったことなど泣くのではな

く、言葉で主張できるようになって欲しい。

- ・ 気持ちの切り替えが出来るように。場に応じた行動が出来るようになって欲しい。
- ・ 時間を意識して間に合うように動いたり、周りの様子をみて行動できるようになって欲しい。やりたいことでなくやらなければならないことを優先する。
- ・ やればできる、という自信を持てるようになって欲しい。時々登園しぶりがあるので、親との信頼関係の構築と共に、休みの日も園に行きたい！というくらいになって欲しい。入学に向けて自立を期待する。
- ・ やるべきことがある時は、さっと動けるようになって欲しい。
- ・ 運動が苦手なので、その点での成長を期待する。
- ・ 食事の姿勢、マナーが身についてほしい。
- ・ 自分の名前が正しく書けるようになって欲しい。
- ・ 時間や行動の見通しが持てるようになって欲しい。

《年長》

- ・ いろいろな場面で“我慢”が出来るようになって欲しい。時間を意識して行動できるように。
- ・ 環境の変化に対応し、心が安定して楽しく過ごして欲しい。
- ・ たくさんの友だちと、まずは楽しく過ごせるように。何かにつまずいても自分で持ちこたえられるようになって欲しい。
- ・ 新しい環境での自立。自分のことは自分で進んでやるように。
- ・ 進んでしっかりと挨拶できるようになって欲しい。
- ・ 今すべきことを理解して行動に移せるようになって欲しい。
- ・ 園での経験を力に、本人の良さをのばし、友だちと強調しながらたくましく育てて欲しい。
- ・ 優しさを忘れずに。
- ・ 友達とのコミュニケーションを大切に。
- ・ 新しく出会う人や物事の中で、楽しめるようになって欲しい。
- ・ 積極性が育って欲しい。
- ・ 年長の生活で学んだこと、例えば時間を気にして動く、自分たちで清掃をするなど、小学校へ向けて準備してきたことを役立て、自信をつけてくれたらと思う。
- ・ 生活のリズムを一定にして、日々の行動にまず慣れて欲しい。今は、朝ごはんの完食、食後の下膳、パジャマをしまうことを忘れずにできるようがんばっている。
- ・ 友だちの思いをしっかりと聞きながら自分の思いも相手に伝えられるようにしながらコミュニケーションを図って欲しい。
- ・ 授業をしっかりと受けることが出来る姿勢が育って欲しい。
- ・ 今以上にいろいろな事にチャレンジしてさらに自信をつけていって欲しい。
- ・ 困ったことなど泣くのではなく言葉で伝えられるようになって欲しい。

□ 園生活や教育運営等について、お気づきの点がありましたらお聞かせください。

《満3歳》

- ・ 担任以外の先生がたくさん名前を呼んでくれて、コミュニケーションをとってくれたのがとても嬉しかった。いろいろな先生がしっかりと見てくれているので安心して通わせることが出来た。
- ・ イベント行事を楽しみにしている。
- ・ いつもいろいろと考えてやってもらえていると思う。

《年少》

- ・ 違う学年の先生達も子どもの名前を呼んで声をかけてくれて、とても嬉しく安心できる。これからも、園全体で子ども達の成長を見守って欲しい。子ども達にとって、家族以外に心を許して甘えられる存在がいるのはとても有難く心強い。
- ・ いつも先生達みんなで子ども達のことを見てくれて有難い。
- ・ 行事やイベントを楽しみにしている。
- ・ 季節の行事や日本のならわしを大事にしていると思う。母のみならず父や祖父母の参観会も嬉しい。
- ・ 音楽祭での指定席はゆっくりと参加できる。
- ・ 子どもが子どもらしく、心も身体も元気に成長して欲しい。今後も温かい目で見守っていただけたらと思う。
- ・ 一人で生活出来るように、大切なことを学び、過ごせしていると改めて感じている。
- ・ 給食、四季の行事、先生達…全てにおいて感謝の気持ちである。
- ・ コロナ禍で、出来なかったこともあり、子ども達やお母様方の顔が覚えられなかったことが残念。
- ・ 来年は親子遠足などあるといいなと思う。
- ・ この一年でたくさん成長し、力をつけてもらえた。
- ・ 真冬の寒い時期は、戸外で過ごす時に薄手のジャケットを着用することを許可して欲しい。

《年中》

- ・ コロナ禍の園生活の中で、子ども達にできる最大限の保育をしてくれたと思う。子どもにとって一度しかない“この瞬間”のひとつひとつを大切にしてくれてありがたい。コロナ禍でも“可哀そうな園生活”でなかったのは、先生方のおかげだと思う。
- ・ コロナ禍でもいろいろな行事を計画し、たくさんの体験をさせてもらえてありがたい。来年度は、コロナも落ち着き、以前のように戻っていくといいなと思う。
- ・ 焼津幼稚園の子は、みんな元気があってのびのびしている。造形展の作品もみんな素晴らしいし、もっと幼稚園の良さをアピールして欲しい。
- ・ 子どもの育ちについて、親身になって相談にのってもらえた。保育現場での事件や事故が多い中で心配や不安もあったが、手厚いサポートのおかげで安心して子どもを預けられた。
- ・ 子どもの気持ちに合わせて言葉を選んで指導してくれて、子どもも楽しく通えた。連絡ノートの返信も丁寧にしてもらえ、お迎えの時などに園での様子を伝えてくれて、安心できた。
- ・ コロナ禍で仕方ないことではあるが、親子遠足がないのはやはり残念。近場でもいいし、バスを使わず現地集合、解散でもいいので検討して欲しい。
- ・ マスク着用について、社会的にも捉えが変わってきているが、今後どうしていくのか…。来年は

もっとイベント事が出来ることを願う。

- ・ 先生と話す機会をもう少し設けて欲しい。
- ・ 全員で同じことが出来るのも良いと思うが、もっと個性を大切にしたい。もう少し時代に合った考え方を取り入れて欲しい。親子遠足は、どこの家庭もいろいろな施設へ出かけているので、費用もかかるし、実施しなくてもよいのでは。
- ・ 我が子の担任以外の先生たちの顔がわからないので、年度初めに、先生たちの写真や名前、クラスがわかるように提示してはどうか。

《年長》

- ・ たくさんの先生方にやさしく見守ってもらい、楽しい園生活を過ごすことが出来た。
- ・ 季節の行事がたくさんあるのが嬉しい。
- ・ 子ども一人ひとりの思いを大切に育てて下さりありがたい。
- ・ いつもいろいろと考えて頂き感謝。
- ・ コロナ禍の難しい状況の中、子ども達が気落ちすることなく登園できた。今後も判断しづらい場面があると思うが、子ども達の健康を守ってもらいたい。
- ・ コロナ禍でも安心して園生活を送ることが出来た。行事等で思い出を作ること大切だが、一番は毎日の園生活だと思った。元気に登園し笑顔で元気に帰ってくる。これが何よりの成長だと思う。きっと一日一日がイベントのように楽しかったんだと思う。先生の話をしっかり聞いてきていて、小学生になったらやらなくてはいけないことを自分で意識し始めた。クラス、学年を超えた園での環境作り、とても良いと思う。
- ・ 3年間、切磋琢磨しながら成長できた。非日常だったコロナ禍の3年間はとても思い出深い。
- ・ 子どものことをしっかりと見てくれたり成長できるよう対応してくれたり、感謝。
- ・ 自分達で育てたものを食べたりする経験はとても良い。
- ・ コロナ禍でも行事の内容を考えながら開催してもらえてありがたかった。大分落ち着いてきているので、そろそろ例年通りに戻してもいいのではないか、と思うこともあった。
- ・ コロナ禍で制限が多くある中、たくさんの行事を開催していただいたことに感謝。欲を言えば親子遠足に行きたかった。それでも、劇や造形あそびなど、子ども達の元気で可愛く、家とは違った姿をたくさん見ることが出来、成長もたくさん感じられ、嬉しく思う。
- ・ 宿泊保育や給食を親子で食べるなどが経験できなかったことが悔やまれる。どうしようもないことで、その中でも先生達が工夫して取り組んでくれたことにはとても感謝している。今後は早く例年の様な行事が戻ることを祈っている。
- ・ 3年間で1回も親子遠足に行けなかったのは残念。参加不参加は各自にまかせて実施して欲しい。
- ・ おやつが食事の補食になる内容だと良いと感じた。
- ・ こぼとの迎えの際、先生が話をされていて気が付いてもらえず、子どもが呼んでくれることがある。
- ・ 送迎の際、園児が車から勢いよく降りてきて、ヒヤッとすることが多い。